

令和3年度 全国学力・学習状況調査 津市調査結果 【小学校】

1 調査の概要

(1) 調査の目的

津市教育委員会及び学校が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

市内のすべての小学校が、各児童生徒の学力や学習状況をより客観的に把握し、児童生徒への教育指導や学習状況をより客観的に把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てます。

(2) 実施日

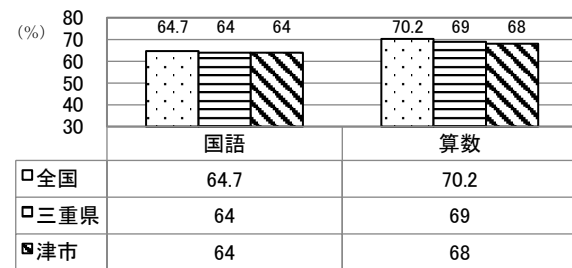
令和3年5月27日（木）

(3) 調査実施人数（津市）小学校第6学年児童 約2,035人 中学校第3学年の生徒 約1,726人

(4) 調査内容

国語、算数・数学、質問紙調査（児童生徒及び学校）

2 津市の結果 (1) 平均正答率



2 (2) 平均正答率推移 (津市・全国)

小学校		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和3年度	
		本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
国語	A	72.2	72.9	73	74.8	71	70.7	64	63.8	64	64.7
	B	58.7	57.8	57	57.5	54	54.7				
算数	A	77.2	77.6	77	78.6	62	63.5				
	B	47.1	47.2	45	45.9	50	51.5	67	66.6	68	70.2
理科						58	60.3				

3 児童質問紙からみる児童の現状

(数字)は質問番号

(1) 国語

質問番号	質問事項	肯定解答	全国	全国差
43	国語の勉強は好きですか	58.9	58.4	0.5
48	国語の授業では、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか	60.7	63.8	▲ 3.1
49	国語の授業では、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしていますか	68.1	71.6	▲ 3.5
50	国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか	70.6	74.3	▲ 3.7

(43)は全国より上回っています。しかし、(49)(50)から、目的に応じて文章を読み、自分の考えをもつことや、話すこと、考えの理由について書くことなどに児童自身が苦手意識を持っていることが分かります。

目的に応じた視点で、文章や資料の読み取り、自分の考えを広げたり深めたりしていくことに課題が見られます。

(2) 算数

質問番号	質問事項	肯定解答	全国	全国差
54	算数の授業の内容はよく分かりますか	86.6	84.6	2.0
55	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.7	92.6	0.1
56	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	70.2	73.9	▲ 3.7
57	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	83.9	82.7	1.2
58	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	88.4	89.0	▲ 0.6

(55)(56)から、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つと思っているものの、普段の生活の中で活用していくところに課題があることが分かります。

また、(58)から公式やきまりがなぜそのようになったのか理由を理解する点についても課題が見られます。

4 各教科における調査結果 (2) 国語

○正答率が80%以上の問題について

① 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う問題（正答率 86.7%）

面ファスナーに関する資料の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する問題でした。これは、学習指導要領[第5学年及び第6学年]「知識及び技能」(1)「言葉の特徴や使い方に関する事項」の内容であり、思考に関わる語句の使われ方に気を付けて読んだり、話や文章の中で使うとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して語や語句を使ったりする学習活動を行っていると考えられます。

② 目的や意図に応じ、資料を使って話す問題（正答率 80.8%）

津田梅子についての【スピーチ】の練習の[]の部分で話す内容として適切なものを選択する問題でした。これは、学習指導要領[第5学年及び第6学年]「思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと」の内容であり、自分の考えが伝わるように資料を用いる学習活動を行っていると考えられます。また、資料を用いる目的や意図を明確にし、聞き手に提示する資料のどの部分に着目してほしいのか等の工夫をしていると考えられます。

○正答率が低い問題について

① 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する問題（正答率 26.8%）

面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているかをまとめて書く問題でした。これは、学習指導要領[第3学年及び第4学年]「思考力、判断力、表現力等 C 読むこと」の内容であり、文章全体の内容を正確に把握した上で、文章の内容を短くまとめることに課題があると考えられます。元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたり、要約する分量などについても考えたりする学習活動を取り入れることが大切です。

② 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける問題（正答率 32.7%）

「面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作ったか」を資料から言葉や文を抜き出して書く問題でした。これは、学習指導要領[第5学年及び第6学年]「思考力、判断力、表現力等 C 読むこと」の内容であり、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることに課題があります。具体的な改善策として、文章中に用いられる図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにした上で、文章と図表などの関係を捉えて読むことができるように指導することが大切です。また、文章と図表などの情報を合わせて読むことで、内容についてより深く理解したり解釈したりすることができます。

4 各教科における調査結果 (3) 算数

○正答率が全国より高い問題について

① 棒グラフの読み取り【3年下】(図1)

② 二次元表の分類整理【4年上】(図2)

「データの活用」領域は、全国平均と比較して同程度の正答率でした。平成31年度においても「数量関係」（データの活用）の正答率は高いことから、資料の特徴を理解し、データを読み取って問題を解決する力は定着していることが分かります。

○正答率が全国より低い問題について

① 直角三角形の面積【5年下】(図3)

② 小数のわり算【4年下】

③ 大きい数のたし算とひき算【3年上】(図4)

全16問中13問が全国平均と比較して低く、特に①「直角三角形の面積」は10.9ポイント低い44.2%でした。①は、図3の直角三角形の面積を求める問題で、次のような誤答が多い結果となりました。

㊦ $3 \times 4 \times 5$ (29.2%)

㊩ 3×4 (10.6%)

誤答㊦㊩より、三角形の面積の公式を忘れたり、適切に用いたりすることができていないことが分かります。このことから、三角形の面積の求める公式の学習のときに、次のような改善策が考えられます。

- 「三角形の面積は、平行四辺形や長方形の面積の半分である」という三角形の性質の学習において、具体的操作活動や話し合い活動を取り入れる。(図5)
- 三角形の面積の公式を導き出す学習において、「三角形の面積＝平行四辺形の面積÷2」であることを図や式で表させたり、説明させたりする。

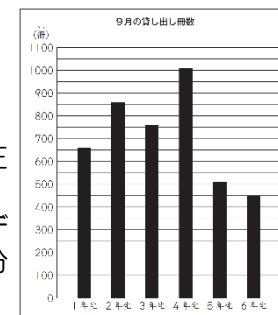


図1

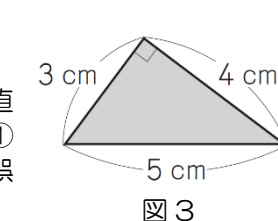


図3

		9月に図書室で5冊以上借りましたか			合計
		はい	いいえ		
読書が好きですか	はい	①	②	③	
	いいえ	④	⑤	⑥	
合計		⑦	⑧		189

図2

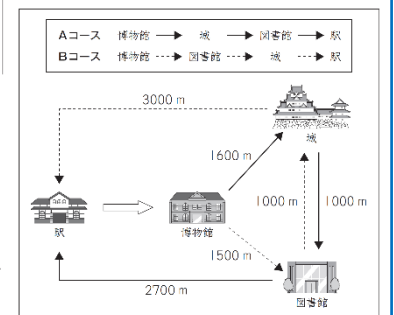


図4

4 各教科における調査結果 (1) 平均正答率

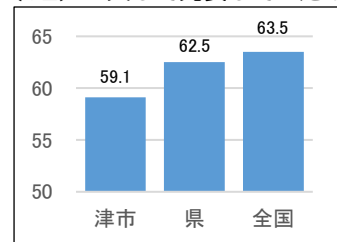
分類		区分	対象問題数	平均正答率(%)				全国との差
		全体	14	64	64	64.7		▲ 0.7
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	68.0	69.8	68.3		▲ 0.3
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0					
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0					
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	76.7	76.3	77.8		▲ 1.1
		B 書くこと	2	59.6	58.8	60.7		▲ 1.1
		C 読むこと	3	45.3	44.1	47.2		▲ 1.9
評価の観点	知識・技能	知識・技能	6	68.0	69.8	68.3		▲ 0.3
		思考・判断・表現	8	60.7	59.9	62.1		▲ 1.4
		主体的に学習に取り組む態度	0					
問題形式	問題形式	選択式	8	71.0	71.3	71.7		▲ 0.7
		短答式	3	70.2	71.3	70.6		▲ 0.4
		記述式	3	38.2	37.7	40.2		▲ 2.0

5 児童質問紙調査結果について

(数字)は質問番号

(1) 主体的・対話的な学習

(32) 工夫して発表していたか



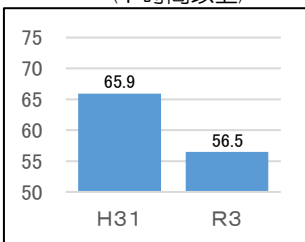
(32) 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

肯定的に回答した児童は 59.1% で前回 (平成 31 年度) とほぼ変化はありませんが、全国平均に比べ 4.4 ポイント低くなっています。

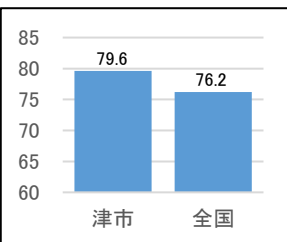
児童が自分の考えを発表する場を各教科等における授業など様々な活動において増やしていくことが必要です。

(2) 家庭学習とテレビゲーム時間について

(18) 家庭学習時間
(1 時間以上)



(5) テレビゲーム時間
(1 時間以上)



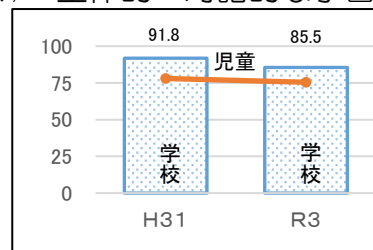
(17)(18)の結果から、1 時間以上家庭で学習をしていると回答した児童は、56.5% で、前回よりも 9.4 ポイント下回っています。さらに、(5)からも、1 時間以上テレビゲームをしている児童は、全国よりも 3.4 ポイント高くなっています。このような結果から、家庭学習の時間が減少し、テレビゲームの時間が増加するという家庭での過ごし方に大きな課題が見られます。

今後、ドリル等を用いた反復学習に加え、児童が自分の考えを文章で回答するような学習課題を設定していくとともに、児童自らが計画を立てて家庭学習に取り組めるよう発達段階に応じた指導が必要です。

6 学校質問紙調査結果について

(数字)は質問番号

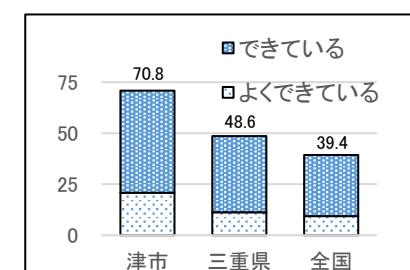
(1) 主体的・対話的な学習



(29) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した学校の割合は 85.5% と 8 割を超えており全国 85.3% とほぼ同じですが、前回と比較すると減少しています。児童への質問でも肯定的な回答をした割合が減少しており、小学校においては、感染症対策を行いながら課題解決に向けて話し合いをするなどの活動を取り入れることが難しかったことが影響していると思われます。

(2) ICT 活用について



(64) コンピュータなどの ICT 機器やネットワークの点から、遠隔・オンライン授業を行うための準備ができていますか

「よくできている」「できている」と回答した学校の割合は、全国を大きく上回っています。津市 GIGA スクール構想の実現に向けて、令和 2 年度中に全ての学校においてタブレット端末活用研修が行われ、教職員全員が操作方法を習得し授業での活用方法についての研修を深めることができていたことに加え、令和 3 年度当初には、端末活用研修をオンラインで実施したり、「臨時休業を想定した学習モデル」を作成し、それをもとに各校で取組が進められたりした成果であると思われます。

7 今後の改善方策について

家庭学習の充実を

全国学力・学習状況調査の結果から、国語、算数をはじめ、教科横断的に様々な教科で授業改善に取り組んでいくことが大切です。

また、家庭での過ごし方や学習に向かう姿勢、取組時間の見直しが課題として見えてきたことから、授業と合わせて家庭学習の更なる充実が求められます。

そこで、下記の家庭学習改善方策を参考にし、全ての学校で取り組みます。

◆ 家庭学習改善方策 ◆

① 全教職員で家庭学習の手引きの確認をし、確実な取組をしましょう

・「津市版家庭学習マニュアル」を参考にし、各校の手引き等をもう一度見直し、学校全体の取組にしましょう。

ポイント

- ◆ 家庭での生活習慣を身につけることができるように
- ◆ 自分の課題や能力に合わせ、計画をし、自ら学んでいく力の育成を
- ◆ 家庭学習で身につく力(見える学力・見えない学力)を全教職員で再度確認を
- ◆ 家庭と学校が連携した取組を

② 家庭学習の課題の幅を広げましょう

・探究的な課題や思考力・表現力を育成する課題等、学習課題の質の向上をしましょう。

ポイント

- ◆ 「みんなの学習クラブタブレット」、「学—Viva!!セット」、「わかる・できる育成カリキュラム」等の活用
- ◆ 授業と連動した学習課題を

◆ 学力向上に向けた取組 PDCA サイクルチェックリスト ◆

□ 子どもたちがどこでつまづいているのか、学校全体で分析し、共有できているか

- ・学調やみえスタ等で正答率の低かった問題を校内研修で確認 ☞ どの学年のどの内容・どのような指導が必要か
- ・自校と県の設問別平均正答率を比較 ☞ 自校「強み」「弱み」を把握・自身の授業課題を知る

重要 該当学年や教科だけでなく、全教職員で共有できているか

□ 子どもたちが、「できる」ようになる取組を、学校全体で進めているか

- ・課題ある内容について授業改善を組織的・系統的に進める ☞ 「わかる・できる育成カリキュラム」等の活用
- ・みえスタディチェックの問題に再度取り組む ☞ 朝学・宿題等で課題問題を中心に・通信で保護者への協力
- ・授業スタイルや学習ルールを学校で統一 ☞ 「めあての提示」「自力解決」「学び合い」「振り返り」で授業のリズムを

重要 全教科・教育活動で教科横断的な取組をしているか

□ 子どもたちが「どれだけできるようになったか」を確認、検証しているか

- ・課題に対し繰り返し学習を行った後、習得できているのかチェック ☞ 過去の問題や「学—Viva!!セット」等を活用